

シンポジウム「21 世紀社会の持続的発展と次世代人材の育成を支える私立大学」
～国家戦略会議における民間議員の意見を受けて～

平成 24 年 5 月 17 日 学校法人文化学園 A 館 20 階

主催 日本私立大学団体連合会 発言者 黒田壽二

1 日本において、私立大学が果たしてきた役割

- ・私学は建学の理念に基づき、自主的・自律的に多様で重層な人材を養成している。
- ・日本の高度成長を支えてきたのは私立大学である。

OECD 統計で GDP 比 0.5% と最低の国費投入でありながら、世界的に高い高等教育水準を維持できるのは私立大学が大きな役割を果たしているからである。

大学学部教育の約 8 割を私立大学が担っている。

全大学	国立	公立	私立
780 校	86 (11%)	95 (12%)	599 (77%)
2,893 千人	623 (22%)	144 (5%)	2,126 (73%)

2 21 世紀社会のグローバル化と情報化

- ・21 世紀型市民の育成 社会の中で自立活躍できる人材の育成
- ・グローバル化時代に対応できる人材の育成

3 人材の多様化と重層化

- ・多くの私大で多彩で多様な中間層を育成

4 世界に通用する研究の推進と教育の透明化

- ・特に世界に伍していける研究の高度化と集中(国公私を問わず)
- ・エリートといわれる指導者と中間層のバランスある育成(多様性と重層性)

5 地方における私立大学の役割

- ・地方の大学は地域振興発展に貢献している。
- ・地方の地域文化発展の中心としての役割を持っている。
- ・我が国の再生・発展の原動力となるのは、私立大学である。

6 私学助成のメリハリ論に対して

- ・私学振興助成法(昭和 50 年制定)で期待した経常費(基盤的経費)の 1/2 を速やかに達成させる。(現実には 11% に留まっている。最高時で 28%)
- ・経常費助成におけるメリハリは各私学の経営努力を促進するため、すでに取り入れられている。
- ・私学助成は教育研究の基盤的経費に対する助成であり、人件費補助ではない。

7 私学に対する統廃合論に対して

- ・私学の統廃合は、自律的に行われ、すでに 8 大学が廃止あるいは学生募集を停止している。統合もすでに 4 大学で実施され成果をあげている。
- ・私学の統廃合は努力の結果であり、あくまでも自主的判断に委ねるべきである。